

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連		*	*	*
(北陸)		スーパー（店長）	来客数の動き	・夏祭りや、お盆に向けての注文が前年よりも好調に推移している。外食からやや内食への傾向の変化がうかがえる。
		スーパー（店舗管理）	来客数の動き	・来客数が増加している。猛暑によって時間帯が朝晩に移行していることと、日中の外出を近隣や1か所で済ませているようである。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・今月は特に猛暑の影響で、来客数は微減が続いている。一方で、客単価の増加が大きく、販売量としては好調に推移している。特に内容としては、1人当たりの飲み物を買う量が増えている。また、氷やアイスなど冷たいものを買う客も多くみられる。冷やし麺などもそうである。
		衣料品専門店（店舗運営）	来客数の動き	・来客数が前年比で5%上がっている。
		家電量販店（店長）	販売量の動き	・真夏日以上の気温の高い日が続き、エアコン販売が前年より好調である。
		乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・7月の販売量は前年同月比で約110%の見込みである。3か月前の販売量が前年同月比90%であり、上向きである。
		住関連専門店（役員）	販売量の動き	・今年の暑さの影響で、し好品を含め暑さ対策に対する消費に動きがみられることも、販売量増加の要因の一つである。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・特に県外からの団体旅行が多く、和食部門を中心に来客数が伸びている。平成30年7月豪雨では大きな影響がなかったため、観光客が流れていることも考えられる。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・観光客の動きは良くないが、来客数は悪くない。
		旅行代理店（所長）	お客様の様子	・夏休みに入って家族旅行などの予約や問合せが増えている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今年は何年になく梅雨明けが記録的に早い。猛暑が続いており、昼間でもタクシー利用が多い。夜の繁華街も人出は多く、盛況である。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・暑い季節ではあるが、契約獲得件数は暑さにかかわらず順調であり、前年比2～3割増で推移している。インターネットの高度利用に向けて、高速光サービスの需要が高まっている。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・ボーナス商戦の時期の影響で、インターネットやケーブルテレビ契約共に少しずつ契約数が伸びている。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・精肉の動きは非常に良いが、ハムなどの加工品の動きが余り良くないことから、どちらともいえない状況である。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	お客様の様子	・配送費が改定されて商品が全体的に値上がりしているため、客が購入をちゅうちょするケースが増えている。
		一般小売店〔鮮魚〕（役員）	販売量の動き	・例年のことではあるが、夏場は売上が伸びない。今年には特にそう感じる。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・お中元商戦は、送料の値上げが影響して客単価が下がり、全体的に苦戦している。期間を通して前年割れで推移している。クリアランスセールが6月後半に前倒しスタートしたことで、7月は前年割れとなっている。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・ボーナス商戦で一部好調な動きはあるものの、平成30年7月豪雨や猛暑の影響で来客数が減少している。また、全体的に夏物クリアランス需要が先行しており、消費の動きは弱い。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・猛暑のため、買物頻度が下がっている。
		スーパー（総務担当）	販売量の動き	・前年より気温の上昇が早まったことにより、野菜や果物の前進出荷や飲料の販売量アップがあったものの、全体の販売量として目立った動向はないことから景気は変わらないとみている。
	スーパー（統括）	単価の動き	・猛暑によって飲料やアイスクリームの売上は好調だが、食欲減退による生鮮品の売上鈍化や、一部エリアでの競合環境の激化による単価の落ち込みがみられる。	

	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数や客単価に大きな変動がない。
	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・20時以降の来客数が前年から大幅にダウンしている。6月1日に米飯の値上げを実施しており、結果として単価アップと来客数ダウンによって前年売上とほとんど変わらない。
	家電量販店（本部）	販売量の動き	・猛暑でエアコン販売は好調だったが、他の商品の動きに力強さが無い。
	乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・新型車の発表があり、イベントなどの開催を週末に続けて実施しているが、来客数が少ない。多少暑さの要因もあるとみられるが、購買意欲は低い。
	乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・猛暑による影響と店舗改装中でもあるため、来客数に影響している。
	乗用車販売店（役員）	来客数の動き	・自動車販売において、オプション追加による高額の購入が増えており、この点からも景気の上向きは感じられる。
	自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・猛暑の影響も少なく、来客数は前年から持ち直している。しかし、安価な商品を希望する客が多く、客単価は上がっていない。さらに、ガソリン高騰の影響から給油量が前年から下がっている。
	その他専門店【酒】（経営者）	来客数の動き	・当店の納入先である、ウナギ屋は毎年ではあるが大変にぎわっており、この暑さのお陰で絶好調という状態である。それに反して当店への来客は、この暑さのせい、いつも来る客が来ていないといった状況である。
	その他小売【ショッピングセンター】（統括）	来客数の動き	・シネマのヒット作が少なく、来客数が前年を割り込んでいる。それに伴って、飲食業種などの売上もややマイナスの影響を受けている。また、衣料品については一時期の不振からは脱却し、客単価が前年超えを続ける状況である。ただし、来客数の落ち込みを取り返すまでの状況にはなく、売上は前年超えをしていない。
	一般レストラン（統括）	来客数の動き	・単価の高い企画商品の購買点数の増加によって売上高は上がっているが、来客数は前年同時期に達していない状況である。その結果、利益高はほぼ変わらない。
	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・当初は7月の予約状況が前年10%減だったが、直近になって予約が入り始め、ほぼ前年並みに近づいている。
	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比で総売上102%、宿泊人員114%、宿泊単価112%である。前年はイベントを実施し、今年は未実施だったものの、個人客が完全復活して前年比141%となっている。
	通信会社（店舗統括）	来客数の動き	・今のところ来客数は横ばいである。
	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・前年同月で比べると、3か月前と今月はほぼ横ばいに推移している。天候が良く、当初はプラスになるかと考えたが、平成30年7月豪雨やその後の酷暑の影響もあって、思ったほど来客数が伸びていないというのが現状である。
	その他レジャー施設【スポーツクラブ】（総支配人）	来客数の動き	・競合他社の新規店がほぼ同時に3店舗オープンし、大人会員の入会が止まってしまった。体験申込みはあるが量的に大変少なく、会員数は減少している。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・契約件数、契約額共に前年同期を上回っている。新規の客の動きは鈍いが、これまで商談していた客の契約が進み、数字は上がっている。新たな分譲地の販売進捗も良く、景気は良い方向に向かっている。
	住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・法人の設備投資に関する受注案件は多いが、個人の注文住宅の受注は厳しい状況が続いている。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・なかなか契約につながらない。
	住宅販売会社（営業）	お客様の様子	・客に消費税の引上げを意識した言動がみられない。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・猛暑で来客数が激減している。中心市街地では、車を排除した、公共交通での市街地活性化を目指しており、暑さや雪の影響によって歩くことがネックになると、どうしても来客数は減ってしまう。

	商店街（代表者）	お客様の様子	・猛暑の影響か、平日の来客数が少ないように感じる。各店購買層の中心である中年から老年層がゆっくり買物できない天候であり、どうしても郊外の大規模商業施設での買物を優先することになる。	
	一般小売店〔書籍〕（従業員）	来客数の動き	・酷暑によって来客数が減少している。	
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・平成30年7月豪雨と中旬以降の気温上昇によって、野菜や果物の価格が高騰している。客は節約のため来店頻度を減らしている。来客数は減少し、購入単価が増加している。	
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・猛暑が続くなかで、来客数が減っており、相変わらず売上は苦戦している。	
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・平成30年7月豪雨による影響で、宿泊や宴会、レストランのキャンセルが相次いだ。いまだに宿泊の予約状況は回復せず悪い状態である。気温の上昇も加わってレストラン利用客も減少している。全体で前年同月に比べ10%以上悪くなる見通しである。	
	都市型ホテル（役員）	販売量の動き	・7月に入って宿泊部門の稼働率が減少傾向にある。レストラン部門も猛暑の影響から各店非常に厳しい状況にある。景気動向は下向きの傾向である。	
	タクシー運転手	来客数の動き	・平成30年7月豪雨のような災害のあった年は、山岳登山のタクシー利用件数が伸びない。売上は横ばいである。	
	パチンコ店（経理）	販売量の動き	・売上の減少が続いている。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・気温の高い日が2週間余り続いているせいか、特に高齢者の客足が遠のいている。	
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・当店は客層が高年齢であることから、この猛暑で客は外出を控えている。来客数は最悪の状態となり、前年同月の7割という赤字になっている。当店を含めて周辺の店も閉店時間が早い日が多くなっている。
	×	通信会社（営業担当）	販売量の動き	・来客数自体が減少しており、特段大きい割引や主力商品もないため販売台数も減少している。
企業 動向 関連 (北陸)	-	-	-	
		食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・苦戦気味であった国内向け受注が、一時的かもしれないが息を吹き返している。輸出は引き続き好調である。ただし、原料価格を始め製造コストの上昇によって、採算性は悪化している。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・非衣料関係については非常に安定している。衣料関係については、ファッション性のあるレディース向けは非常に苦戦しているが、実用衣料は非常に順調である。その他にも、ユニフォーム衣料が良くなっている。
		一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・国内、欧米市場共に順調な受注が取れている。
		精密機械器具製造業（役員）	受注量や販売量の動き	・現状での生産量は、これまでと比べて微増ながらほぼ同程度で推移している。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注状況は横ばいである。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・原料価格高騰により販売価格を改定している。その影響による競争力の低下は否めない。
		通信業（営業）	受注量や販売量の動き	・当月も前年同月を上回っている。現時点で翌月以降の受注見込み件数も堅調である。
		金融業（融資担当）	取引先の様子	・平成30年7月豪雨の影響は、当地の製造業と卸売業共に軽微である。一方で、酷暑の影響はあり、各小売店の来客数が思ったほど伸びていないとの報告がある。ただし、お中元などのギフト関係は地元商品を中心に好調である。
		不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・同業者から聞いた話では、まあまあ動きがあるという人が結構いる。現在、個人客の動きが少しずつ出てきている。
		司法書士	取引先の様子	・不動産取引や不動産融資の案件が、個人の住宅建築以外に全くない。

	税理士（所長）	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製造業関係では、受注が堅調である。産業の分類にもよるが、製造設備関係は、大手企業の設備投資や海外での設備投資関連の受注が非常に堅調である。建設業は業種によって一部厳しいものがある。その厳しさというのは、人手不足による受注計画の見直しや、工事計画の見直しによる計画の延期などが原因であり、人手不足に伴う不況の影が少し出てきている。</li> <li>・地元の公共事業の発注が全くない。</li> </ul>
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・梅雨明けが早く、飲食店の酒類の動きは良かったが、その後の猛暑によって逆に人の動きが鈍くなり、失速している。</li> </ul>
	金融業（融資担当）	受注量や販売量の動き	
	x	-	-
雇用関連		*	*
(北陸)	人材派遣会社（役員）	求職者数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求人情報はWeb上で検索されているようだが、なかなかマッチングしていない。求人倍率が高いなかで、求人内容のより好みが出ており、なかなか決めない状況にあるのではないかと考える。</li> </ul>
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求人数は横ばい傾向である。</li> </ul>
	新聞社 [ 求人広告 ]（担当者）	周辺企業の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求人広告に関しては掲載メンツが半固定化されており、ある程度の待遇のところは人が足りているようである。現状は、そこまで急いで人を採用しなくてもよいと考える企業が増えている。</li> </ul>
	新聞社 [ 求人広告 ]（営業）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業の求人意欲は相変わらず高い。</li> </ul>
	職業安定所（職員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月の新規求人数は全数において4,377人と、前年同月比で8.5%の減少となっている。フルタイムでは7.4%の減少、パートタイムでは9.8%の減少で、共に減少となっている。これを産業別にみると、建設業と製造業と複合サービス業では大きく増加しているが、飲食サービス業、生活関連サービス業、医療福祉業、サービス業で大きく減少している。</li> </ul>
	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年は4月の新年度以後に徐々に求人が増加するが、今年の求人数は横ばいか、やや減少している。</li> </ul>
	学校 [ 大学 ]（就職担当）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・求人票の出方が前年並みに落ち着いてきている。就職内定者の割合が、前年同期より早く9割以上になっている。</li> </ul>
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回の発行につき求人件数が20~30件減っている。</li> </ul>
	x	-	-